

# 2008 年度 事業報告書

財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団

# 目次

目次.....	- 1 -
はじめに.....	- 2 -
1 組織.....	- 3 -
(ア) 会員状況(2009年3月31日).....	- 3 -
(イ) 役員等(敬称略・順不同:2009年3月末現在).....	- 3 -
2 会議.....	- 4 -
(ア) 理事会.....	- 4 -
(イ) 評議員会.....	- 4 -
3 各事業報告.....	- 5 -
(ア) 森林維持管理整備.....	- 5 -
植樹.....	- 5 -
ヤブ刈り.....	- 7 -
整理伐・間伐.....	- 8 -
「森づくり指針」検討.....	- 9 -
(イ) 自然環境調査.....	- 10 -
地形図整備.....	- 10 -
植物類.....	- 10 -
動物類.....	- 12 -
その他.....	- 14 -
評価(生き物の視点から見た、アフアンの森と整備作業).....	- 15 -
3 各事業報告.....	- 16 -
(ウ) バッファーズーンの充実.....	- 16 -
国有林の健全化.....	- 16 -
周辺環境と調査データの比較から、アフアンの森の生態学的位置づけを知る.....	- 16 -
(エ) 自然環境の復元や保全活動を担う人材育成事業.....	- 18 -
(オ) 自然保護のためのトラスト活動.....	- 19 -
(カ) 心の再生事業.....	- 20 -
(キ) 国際交流事業.....	- 20 -
(ク) 普及啓発事業.....	- 21 -
(ケ) その他の事業.....	- 21 -
巻末資料:地球環境を考える英国の旅.....	- 22 -
巻末資料:英皇太子ご来訪レポート.....	- 24 -
おわりに.....	- 26 -

## はじめに

---

財団法人 C.W.ニコル・アフアの森財団は本年 5 月 31 日で設立丸 7 年を迎えました。特に本年度は、英国のチャールズ皇太子がアフアの森にご来訪いただくという、当財団にとっては歴史に残る栄誉を賜りました。

財団の活動は荒廃した日本の森を再生することを目的に、現理事長である C.W.ニコルが 1986 年より飯縄山麓に位置する 30 年以上放置された里山（長野県上水内郡信濃町）を少しずつ買い取りはじめたことが始まりです。その第一歩はわずか 0.2 ヘクタールほどの土地からでした。その後 17 年間少しずつ買い取り、2002 年財団設立時には約 9.6 ヘクタールとなりました。その後、多くの方のご協力により、昨年度は約 17 ヘクタールまで広げることができました。そして今年度、神戸在住の個人の方からのご支援により、約 12 ヘクタールのトラストを行うことができました。

現在では約 29.6 ヘクタールの森において、天然林復元活動が広がるにいたりました。

ここまで財団が成長できましたのも、皆様の変わらぬご支援の賜物と実感しております。この場をお借りしまして、あらためて御礼申し上げます。

# 1 組織

---

(ア) 会員状況 (2009年3月31日)

	口数	金額
賛助会員	156 口	7,800,000 円
アフアン会員	794 口	3,970,000 円

(イ) 役員等 (敬称略・順不同：2009年3月末現在)

## 理事・幹事・評議員

理事長	C.W. ニコル	評議員	梅崎 義人
専務理事	森田 いづみ		大熊 孝
常務理事	松木 信義		関口 鉄夫
理 事	大槻 幸一郎		瀬田 信哉
	金子 与止男		武田 徹
	谷 達雄		茅野 實
	野口 理佐子		星野 佳路
	高見 裕一		前河 正昭
	林 秀剛		前田 利彦
	山瀬 一裕		横谷 幸
	アリスター・ドライバー		狩野 土
監 事	畠田 洋平		
	吉田 寛		

## 2 会議

---

### (ア) 理事会

日時	2008年5月26日(月) 13:30~15:20
出席者数	理事総数11名 幹事2名 出席者数12名(内委任状3名)
審議事項	任期満了に伴う役員・評議員再任について 2007年度事業報告(案)について 2007年度会計報告(案)について 2008年度事業計画(案)について 2007年度収支予算(案)について アフアンの森 ビジターセンター建設 アフアンの生物多様性の評価の試み・・・kikyo

### (イ) 評議員会

日時	2008年5月26日(月) 15:30~17:00
出席者数	評議員総数10名 出席者数8名(内委任状2名)
審議事項	任期満了に伴う役員・評議員再任について 2008年度事業計画(案)について 2008年度収支予算(案)について アフアンの森 ビジターセンター建設 アフアンの生物多様性の評価の試み・・・kikyo

### 3 各事業報告

---

#### (ア) 森林維持管理整備

##### 造林に関わる整備作業と「森づくり指針」への改訂

本年度の森林整備内容は、従来より整備を行ってきた場所への、植樹から間伐までの造林施行が主な作業となりました。【別紙資料 -2】

#### 植樹

##### 整理伐の済んだトラスト取得地に、約 400 本を植樹

前年度に整理伐・間伐を行なった約 4,500 m<sup>2</sup>の 2005 年トラスト地へ植樹を行ないました。樹種はカツラ・トチ・コナラ・ブナの郷土樹種としましたが、この場所は土壤水分が低い場所から高い場所が混在するため、樹種はカツラ・トチ・コナラ・ブナの郷土樹種とし、土壤水分が高い場所へはカツラ及びトチを、低い場所へはコナラ及びブナを植樹しました。

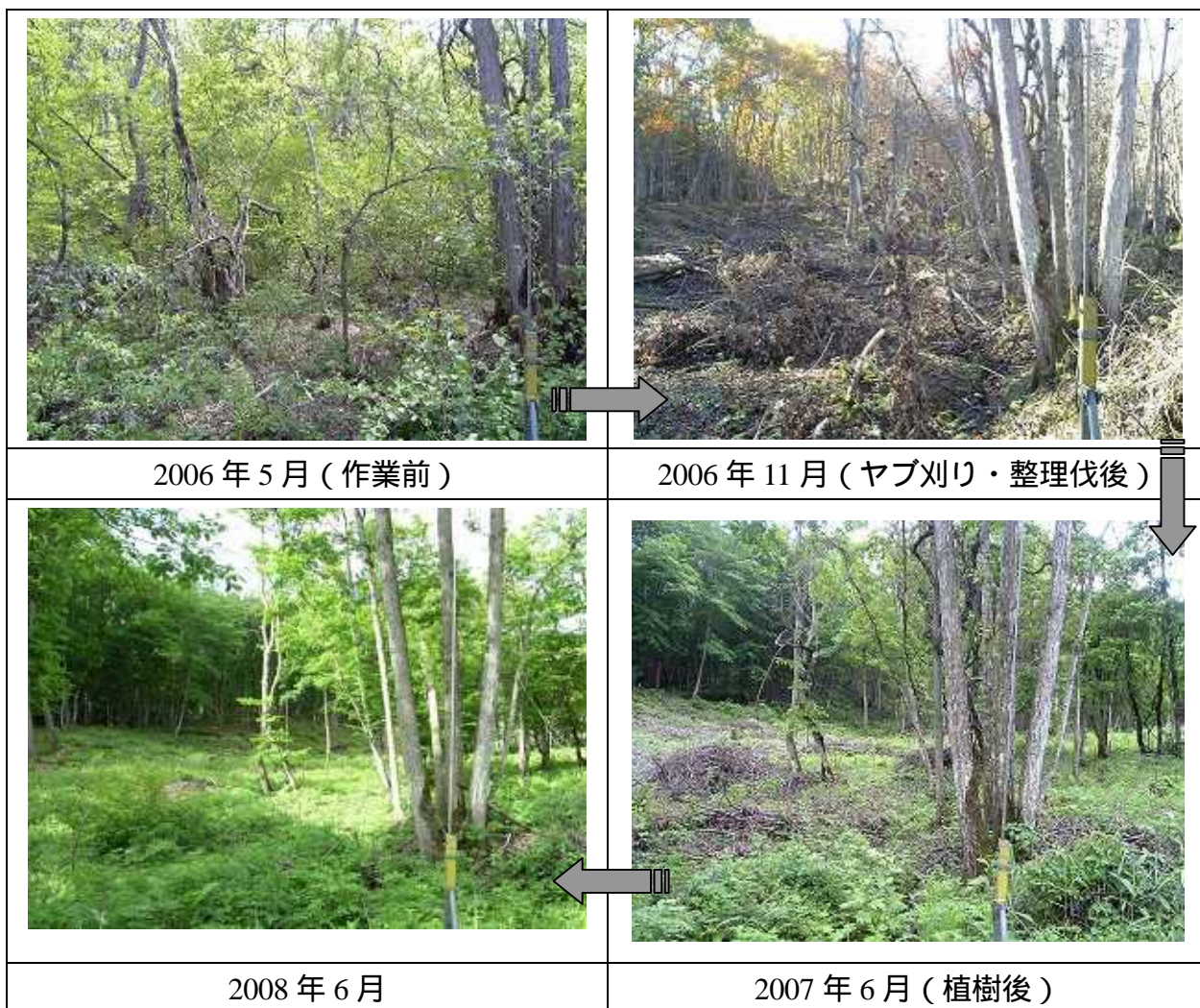
また、過去の植栽地で雪圧やネズミによる被害などで枯れてしまっているものが多い場所へは、実生苗の移植を含むコナラを中心とした補植も行ないました。

合計、購入苗 400 本及び移植苗木数十本の植樹作業を行ないました。

### 3 各事業報告

#### 写真で見る作業の変化（2005年トラスト取得地）

2005年植生調査を行い、翌2006年からヤブ刈り、ツル切り、整理伐、地ごしらえ、植樹、下草刈り、高枝切り、支障木の伐採等行なってきました。これらの作業により、地表まで光りが届くようになり、下層植生が発達してきました。





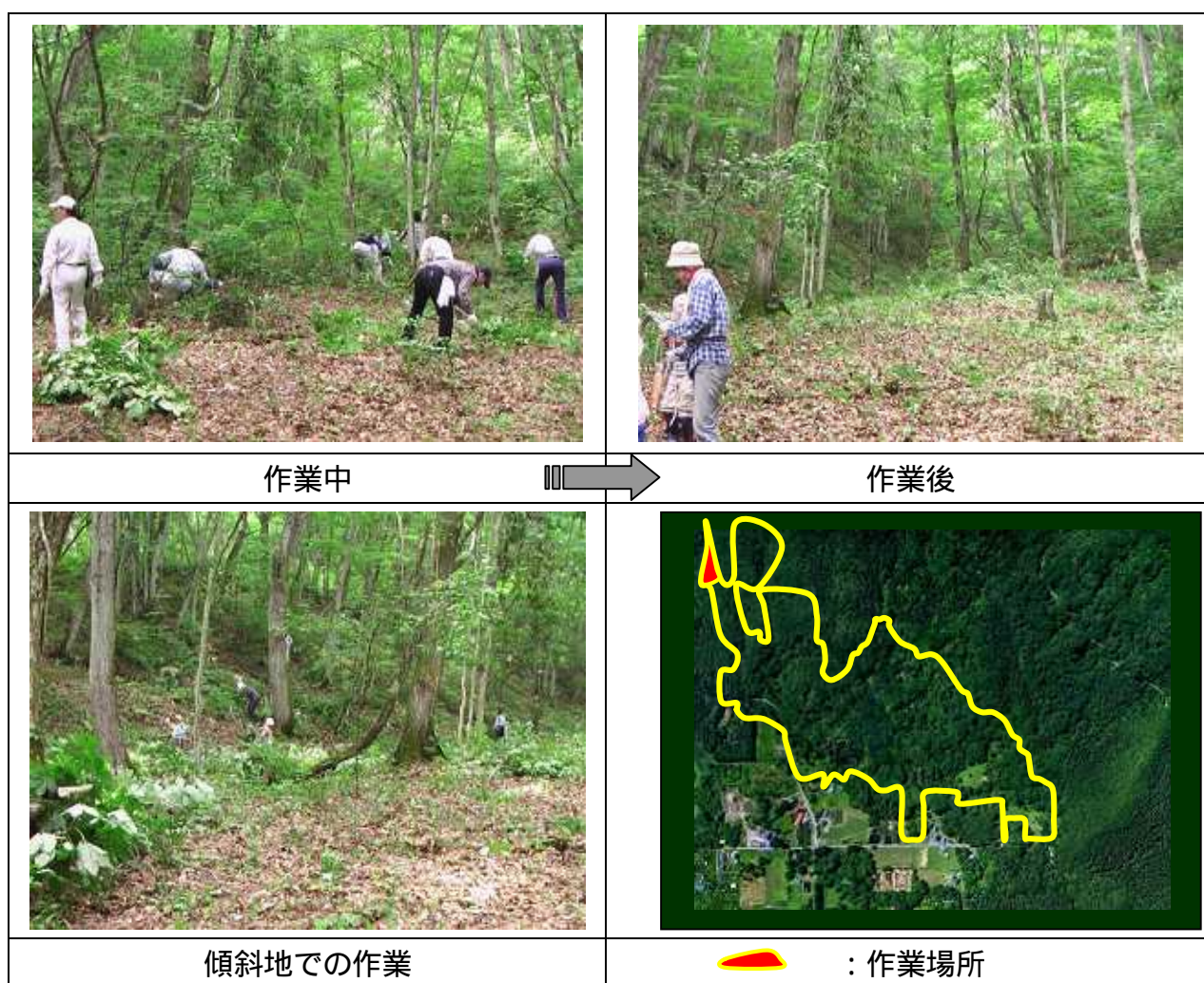
### 3 各事業報告

#### ヤブ刈り

##### ボランティアの皆さんに協力いただき、手作業でのヤブ刈り

ボランティアの方々にご協力頂き、約 2,200 m<sup>2</sup>のヤブ刈り作業を行ないました。この場所は森内南側の一番奥に位置し、回りを傾斜地に囲まれています。機械を使っでの作業が困難な場所もあるために、手作業を主体に進めています。

今後もボランティアの方々にご協力いただきながら、継続して整備を行なっていく予定です。





### 3 各事業報告





#### 整理伐・間伐

約 7,500 m<sup>2</sup>の伐採・地ごしらえを実施。材は家具などに利用。

枯死や幹折れ及び形質劣化を起こしているものを中心に、整理伐・間伐を行ないました。周辺も含むこの場所は、アファンの森以前は牧草地後も一部あり低木も大きく成長し、笹が繁茂する深い藪でした。これまでの作業はヤブ刈り、ツル切り及び整理伐、間伐を行い、樹幹の大きく空いた場所へは植栽を行ってきました。

今年度は、まだ手入の進んでいない、木が育つのに条件の良い場所約 7,500 m<sup>2</sup>の整理伐、間伐及び地ごしらえを行いました。伐採した材は、秋にコマ打ちを行なうナメコ及びシイタケのホダ木並びに来春森内に敷くチップの材として活用します。

また、直材（まっすぐな材木）で、ある程度の太さのあるものは、2009 年度完成予定の、「アファンセンター」の家具の材として利用されます。

	
伐採木 (オニグルミ)	伐採木 (コブシ)
	
伐採木 (チップ材)	伐採木 (家具材)

### 3 各事業報告

---

#### 「森づくり指針」検討

##### 17 エリアそれぞれに具体的な整備計画を策定

昨年より検討を重ねてきました「森づくり計画」を「アファンの森 森づくり指針」と改め、内容を改訂しました。全域を17エリアに区分し、それぞれでの今後の具体的な維持管理計画を明文化しています。

### 3 各事業報告

---

#### (イ)自然環境調査

今年度実施した調査および作業項目を一覧に示しました。また、各調査については別紙資料にまとめました。ここでは調査結果の概要と考察できる事項を記します。(表 1-a、1-b)

#### 地形図整備

##### 地形図を改訂

トラスト取得地を地形図に加筆するために、測量及び、地形図の改訂を行いました。【別紙資料 -3】

#### 植物類

##### 新たにシダ類 10 種をリストアップ。総確認種は 493 種に

今年度トラストにより取得した地域の植物相を調査し、植生図を改訂しました。【別紙資料 -4】また、全域の植物相リストにシダ植物 10 種を追加しました。【別紙資料 -5】

現在確認されている植物種数は 493 種(長野県レッドデータブック掲載種は 10 種(自生種 6 種))となりました。

##### スプリング・エフェメラルの調査を始める

春先に林床に咲く主な植物(春植物)の分布調査を実施しました。水が流れている場所に集中して分布していることはわかりますが、水は流れていても、造成間もない場所や、放置され藪で覆われていた場所には見られないことが示唆されます。今後の林床への光の入り具合を評価できるものと期待し、続けていく予定です。【別紙資料 -6】

##### 植樹 4 年後も 54%が良好に育つ。移植苗と購入苗に差は見られない

2004 年 5 月に植樹した苗木の生長度合いを調査したところ、全体の約 54%が良好に生長していました。(昨年度は約 55%でした。)クヌギ、ケヤキの生育状況はよく、特にケヤキは、幹の太さが当初の約 7.8 倍、樹高も約 3.5 倍と他種に比べて値が大きい結果でした。一方でキハダは他に比べ状況はよくありませんでした。

コナラ、ミズナラについて、移植した苗木と購入した苗木との間に、生育状況、生長度合いについて大きな差は見られませんでした。今後もモニタリングを続けてまいります。【別紙資料 -8】

### 3 各事業報告

表 1-a 2008 年度自然環境調査項目（地図、植物）

分類	調査項目	実施時期	概要
地図	トラスト地の測量（継続調査） 【別紙資料 -3】	-	トラストにより取得した場所の測量と地形図の改訂を行った。
	20m メッシュの目印付け作業	4 月、 10 月	アファンの森の中でメッシュ位置が把握できるような目印をつけた。
植物	植生図の改訂（継続調査） 【別紙資料 -4】	-	トラストにより取得した場所の植生を調べ、植生図に反映した。
	植物相の追加（継続調査） 【別紙資料 -5】	4 月 ～ 11 月	全域で確認できた植物種のリストを改訂した。
	春植物調査（新規調査） 【別紙資料 -6】	5 月	春先に林床に咲く植物種を、踏査して地図上に記録した。
	植生調査区の樹幹投影図 【別紙資料 -7】	9 月	植生調査区 No.1 の樹幹投影図を作成した。
	植樹苗計測（継続調査） 【別紙資料 -8】	9 月	2004 年 5 月に植樹した苗木の地際直径、樹高を計測した。
	堅果類生産量計測（継続調査） 【別紙資料 -9】	9 月 ～ 11 月	シードトラップを設置し、計測した。
	希少及び資源樹木計測（継続調査）	9 月	胸高直径及び幹周を計測した。
	常設区樹木計測（継続調査）	9 月	立木の胸高直径を計測した。

#### ドングリは不作。ツキノワグマの痕跡は少ない

シードトラップでの堅果類（ドングリ）の生産量調査では、コナラ、ミズナラのドングリは不作でした（調査を始めた 2003 年以降、2 番目に少なかった）。【別紙資料 -9】

ツキノワグマの繁殖や里への出没は、堅果類の豊凶と密接に関係していることが知られていますが、信濃町の配信する「ツキノワグマ出没情報メール」の件数は 3 件と少数でした（2006 年度：18 件、2007 年度：10 件）。また、松木や事務局の私見ですが、アファンの森の中で確認できたツキノワグマの痕跡についても例年より少数でした。

地元住民はツキノワグマを害獣ととらえている状況にあります。直接ツキノワグマの動向を把握できる調査を実施し、本調査の結果と重ね合わせることで、周辺地域でのツキノワグマの動向の傾向を発信することや、周辺地域におけるアファンの森の役割を明らかにすることにつなげられるのではないかと考えています。

### 3 各事業報告

#### 動物類

#### ムササビ、ニホンアナグマを確認

本年度初めてムササビを確認しました。また、昨年度に目視確認をしていましたが写真に収められていなかったアナグマを写真に収めることができたので紹介します。

	
写真 ムササビ (撮影：川崎公夫) カラマツの幹をくりぬいて作ったフクロウの巣箱で確認。数日間利用していたと思われる。	写真 アナグマ (撮影：堤勝彦)

ムササビ (*Petaurista leucogenys*) は、リス科に属する樹上棲の哺乳類で、巣や餌、さらに滑空という行動様式から森林への依存度が極めて高いことが知られており、樹林の縮小・分断の影響を受けやすいと考えられています。今後、アファンの森を含む周辺地域の特に樹林環境について評価してくれる可能性があると考えています。

ニホンアナグマ (*Meles meles anakuma*) はイタチ科に属し、森林でミミズ類などの土壤動物や小動物、果実や堅果物などを採食。トンネルを掘り休息や育児に利用し、冬季には冬ごもりします。森林棲が強いことが知られている本種が確認されていることは喜ばしいことです。

#### フクロウが天然木の樹洞で繁殖

本年度はこれまで繁殖が確認されていた巣箱に加え、シラカバの樹洞の2か所でフクロウの繁殖が確認できました。巣箱については抱卵中にテンが侵入して卵を食べてしまったため巣立ちには至りませんでした。シラカバの樹洞では3羽が巣立ちました。

アファンの森には、休息できる適度な空間のある森林、繁殖に適した樹洞、ネズミ類が豊富に生息する環境が整っていることの表れと考えています。【別紙資料 -12】

### 3 各事業報告

---

#### ヤマネの利用は本年も確認。ネズミの予備調査を実施

本年度の調査でも、ヤマネの利用が痕跡で確認されました。繁殖での利用はされていないものの、一年を通して利用していると考えられます。また、昨年同様、ヤマネの巣箱内でクルミの食痕が確認されました。【別紙資料 -13】

この現象に関連していると思われるネズミ類について、予備調査を実施しました。トラップ調査で捕獲されたのはアカネズミ、ヒメネズミ、ハタネズミ、ヒミズの4種でしたが、捕獲個体数の8割近くがアカネズミでした。【別紙資料 -14】

#### 水辺環境は最大限多様な環境を創出している

水生生物の調査では、トンボ類の確認種数が9科22種に増え(昨年は9科19種)、調査開始から3年目に至っても確認種数が増えていました。これにより、大きく分けても12パターンの多様な水辺・湿地環境が、昨年までに引き続きアファンの森に維持され、新たに1パターンの生息環境が提供されていることが分かりました。

また、昨年まで確認されていたが本年度確認されなかった種も見受けられましたが、同じ生息環境を要求する種は確認できていることから、アファンの森が現状で持っている環境ポテンシャルとしては最大限多様な水辺環境を創出できているのではないかと考えています。

【別紙資料 -16】



### 3 各事業報告

表 1-b 2008 年度自然環境調査項目（動物、その他）

動物	鳥類相調査（継続調査） 【別紙資料 -10】	9月 ～1月	踏査により、種のリストアップを行った。
	一般鳥類巣箱調査（継続調査） 【別紙資料 -11】	5月 ～6月	常設の巣箱の利用状況を確認した。
	フクロウ営巣調査（継続調査） 【別紙資料 -12】	4月 ～6月	巣箱に CCD カメラを設置し映像解析を行なった。
	ネズミ類調査 【別紙資料 -13】		
	ヤマネ巣箱調査（継続調査） 【別紙資料 -14】	8月 ～12月	巣箱を設置し、利用度を調べた。
	コウモリ巣箱調査（継続調査） 【別紙資料 -15】	7月 ～11月	巣箱を設置し、利用度を調べた。
	水生生物調査（継続調査） 【別紙資料 -16】	11月	2004 年に造成した水路および周辺地域で水生生物の状況を調べた。
	定点観測（継続調査）	-	自動撮影装置による観察。
	他	きのこ相の追加（継続調査） 【別紙資料 -17】	9月、 11月
気象観測（継続調査） 【別紙資料 -18】		通年	気象観測装置を設置し、気温、湿度のデータを蓄積した。

#### その他

#### アフアンの森は夏場は涼しく、冬場は冷え込みが厳しくない

気象観測では、一年間の気温について信濃町観測所と比較しました。4月中旬から5月中旬、そして12月は寒暖の差が大きかったようでした。また、6月下旬から9月上旬までは安定して森の中の方が涼しいことがわかりました。一方、1～4月、10～12月の最低気温を見ると、アフアンの森の中の方が高いことが多く、特に1、2月は5 前後暖かい日が見られました。

全体の傾向として、アフアンの森は夏場は約 1 低く、冬場は街中より冷え込まないことがわかりました。

### 3 各事業報告

---

#### 評価（生き物の視点から見た、アフアの森と整備作業）

本年度の調査結果から、現在のアフアの森について、また整備作業について評価できることとして次の事項を挙げます。

#### 様々な生き物の関わりがあって、樹洞での繁殖につながる

本年度フクロウの繁殖が確認された「樹洞」ができるまでの過程を見ると、風や積雪、雷等による幹や枝の折損、木部を分解する腐朽菌が侵入、木部やの菌を食べる昆虫類が侵入、キツツキ類、ネズミ類・ムササビ等が利用することで、分解された木部が洞となり、フクロウが利用、と考えられます。さらに、その樹木がフクロウが利用できるぐらいまで生長している必要があります。

これに加えて、ネズミ類が豊富に生息していることで餌が確保でき、繁殖が可能となると考えられます。自分で作ることのできない樹洞でフクロウが繁殖したということは、気象条件や、様々な生き物が関係していることを表わしているものと考えています。

#### アフアの森は多様な水辺環境を維持しているが、周辺地域とのネットワークがカギ

生活サイクルの中で水域と陸域の双方を必要とし、種によって大きく生態が異なり、好みの生息場所・繁殖場所も異なるトンボ類に注目すると、調査開始から3年目に至っても確認種数が増えて（本年度は9科22種を確認）いました。多様な環境が昨年に引き続き維持されつつ、新たな生息環境が創出されたことが分かります。

しかし、先に示した通り、アフアの森が現状で持っている環境ポテンシャルとしては最大限多様な水辺環境を創出できているのではないかと考えています。今後、アフアの森の中で新たな環境の創出を重視するよりも、実現の難しい環境要素について周辺地域の他の水辺で機能させ、ネットワークを繋げることで「地域として多様な水辺環境の再生・保全」を重視することが現実的であり、有意義であると考えています。

アフアの森は、自然環境においてビオトープネットワークのコアエリアであり、地域の自然環境を保全・再生活動において中心となる存在であることが再確認された結果となりました。

### 3 各事業報告

---

#### (ウ) バッファゾーンの充実

アファンの森を含む地域の森林が、森林生態系のアンブレラ種、上位種が健全に生息する野性生物との共存できる地域社会のモデルエリアの創造を目指しています。コアエリアであるアファンの森に対し、バッファゾーンである周辺地域への働きかけについてまとめました。

#### 国有林の健全化

##### 松木の指導で、学生が国有地の整備作業を実施

2003年からアファンの森に隣接する国有林（放置状態のスギ・カラマツ林）を、東京環境工科専門学校の生徒たちの体験活動・教育的利用の場所である「遊々の森」に設定を要請し、

「<sup>やまわら</sup>山童の森」と名付け、当財団の松木指導により授業の一環として針広混交林へ変換する整備を実施しています。

2008年度は、放置されたスギ・カラマツ林にて9月に45名の生徒（教員5名）、10月に45名の生徒（教員5名）の2回にわたり除伐・下草刈り作業が行われました。

#### 周辺環境と調査データの比較から、アファンの森の生態学的位置づけを知る

本年度の調査からの考察を記します。

##### アファンの森周辺には、フクロウの繁殖適地が少ないのではないか

フクロウの行動圏は、4 km<sup>2</sup>との報告がある。ペア間の巣間距離は1~2 kmとの報告もあります。アファンの森の面積では生活の一部しか補えず、広く周辺環境を利用していると思われます。2ペアが繁殖したことは、アファンの森がフクロウの生息に適した環境だったことは確かであることがうかがえます。一方で、巣間距離が200m未満という稀な近さで行われたことは、アファンの森の周辺に繁殖に適した環境が無いことの表れとも考えられます。今まで、アファンの森から巣立っていった若鳥たちが安心して次の世代を残していける環境は、まだまだ少ない状況なのではないか、と想像しています。

### 3 各事業報告

---

#### 地域における水辺環境の保全・再生に対する役割が高い

水生生物の調査では、周辺に存在する近似した環境と水生生物相を比較するために、事務所前の鳥居川でも調査を行なっています。

トンボ類に注目すると、調査全体で27種確認されているうち26種がアファンの森で確認されています。鳥居川でのみ確認された種が1種だったのに対し、アファンの森のみで確認された種は22種でした。また、双方で確認された種は4種でした。これはアファンの森の水辺環境の多様性を示すとともに、地域における水辺環境の保全・再生に対する役割の高さを示していると考えられます。カエル類の出現状況からも同様のことが言えます。

また、他の水生生物相を比較しても、アファンの森と鳥居川の持つ環境要素は違うことがうかがえました。

この結果は、アファンの森だけが多様な環境を維持管理、創出しているだけでは地域の自然再生・保全は難しい。将来的には地域全体の自然環境、生物多様性を包括的に再生・保全していくことが重要である、ことを示してくれているものと考えています。

### 3 各事業報告

---

#### (工) 自然環境の復元や保全活動を担う人材育成事業

##### 新たな講師を迎えて「親子自然教室」を実施

7月26～27日に「リコー親子自然教室」が実施されました。

人の手が入ることで再生したファンの森での実体験を通して、「森は生きている」ことに気づくとともに、心の解放を目的にリコーグループ社員の親子を対象に行なわれました。

今回は、リコーグループの社員の方にご協力いただくなど、新たな講師を迎えて生き物の生活環境を丁寧に伝え、楽しみながら生き物たちのことを学ぶ場としました。【別紙資料 -19】

##### 生物多様性の視点を加味した「森の教室」を実施

9月19～21日の2泊3日で「リコー森の教室」が実施されました。

リコー環境ボランティアリーダーが、アファンの森での研修を通して学ぶことでレベルアップをはかり、地域の森林生態系保全活動に役立てることを目的として行なわれました。

今回は、これまでの内容に加え、生き物の視点から森林環境を捉える（生物多様性の視点）内容を加味し、下記内容に焦点をあて野外実習中心で行われました。【別紙資料 -20】

- ・ 人間が関わる事で森林が自然の姿に復元されていく姿を見て、森づくり活動の参考にし、自分達の活動に役立てる。
- ・ 生物の視点で環境を評価できる感覚を身につける。
- ・ 生物多様性を目標にした森林整備法を学び、その評価方法について考える。
- ・ 森には多種多様な姿があることを学び、自分たちが係わる森の100年後をイメージしながら、森に対しての適切な働きかけ方を学ぶ。

### 3 各事業報告

#### (オ) 自然保護のためのトラスト活動

##### 本年度、約 12ha の山林を取得

2009年2月、神戸在住の個人の方のご支援により、南東へ数百メートル離れた山林 119,088 m<sup>2</sup> (約 36,024 坪) 取得いたしました。(図 1-a)【別紙資料 -1】

この結果、アフアの森 (森林生態系のコアエリア) の総面積は約 29.6ha となりました。

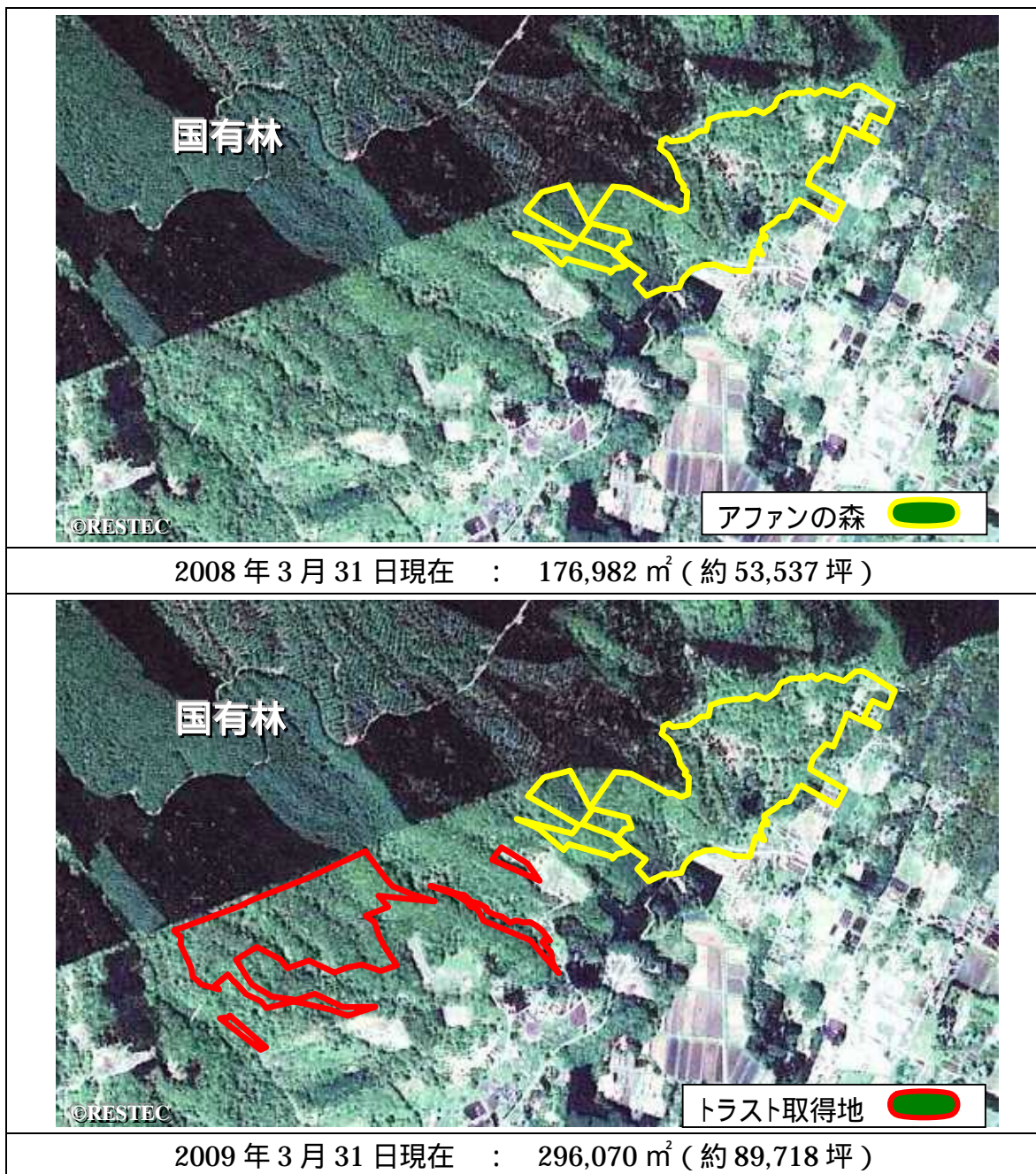


図 1-a トラスト取得地



### 3 各事業報告

---

#### (カ) 心の再生事業

##### ～森の再生から心の再生へ～ アファン“心の森”プロジェクト

今年度は、児童養護施設の子供（4月、8月、9月、2泊3日3回）と盲学校に通う子供（5月、10月、1泊2日2回）たち71名が参加しました。アファンの森での体験を通して、体全体を使って楽しむことで参加者の心が豊かになる事を目標に行なわれました。

【別紙：アファン“心の森”プロジェクト活動レポート】

##### “心の森”を体験

アファン“心の森”プロジェクトは、財団法人C.W.ニコル・アファンの森財団と日本アムウェイ合同会社との協働で行なっているプログラムです。その心の森の活動を、アムウェイ社員の方々により理解していただくために行いました。森での活動をとおして得られる効果を体験していただきました。

##### W a y s ～魂のレッスン～ 新人研修

株式会社ディー・エヌ・エー新入社員を対象に行なわれました。

作業体験、森林療法、アートセラピーなどを行なうことで、当財団と協同で行っている社会貢献活動「豊かな森の再生活動」を理解し、コミュニケーション能力を高めることを目的に行いました。

#### (キ) 国際交流事業

##### 地球環境を考える英国の旅への協力と参加

A N Aセールス株式会社様のエコツアー「地球環境を考える英国の旅」に財団としても協力を行ない、スタッフ数名が英国の自然再生の現場及び、姉妹森の「アファン森林公園」へも訪れることができました。アファン森林公園では植樹式も行なわれ、財団スタッフ、アファン森林公園スタッフ及びツアー参加者の良い交流の場となりました。

【巻末資料：地球環境を考える英国の旅】

##### チャールズ英皇太子 高円宮妃殿下 来訪

10月30日、チャールズ英皇太子及び高円宮妃久子様がアファンの森をご来訪になりました。ニコルの案内で1時間半ほどの滞在でしたが、森で行われている活動の様子をご覧いただきつつ、アファンの森そのものを体感いただく時間でした。実質的な自然環境保全活動に自ら携わり世界的にも評価の高い皇太子が、実際に手が下されている現場に足をお運びいただき、ご自身の目でアファンの森を見ていかれたことは、当財団にとって大変に名誉ある機会だったと考えております。【巻末資料：英皇太子ご来訪レポート】

### 3 各事業報告

---

#### (ク) 普及啓発事業

##### 豊かな森を広げるために、見学・視察等の受け入れ

会員向けの見学会を5月～11月に14回行ない、ご支援いただいている森の様子を見ていただく機会としました。また、地元地域からは小学校の先生、信濃町民、幼稚園の子ども達や森林療法グループ、大学、その他全国から同活動を行っている各種団体や、社会貢献に関心のある企業等が訪れ、森林整備の意義、並びに財団の活動を理解していただく機会としました。また、本年度は見学会だけでなく、信濃町や長野県社会福祉協議会など他団体が主催する活動に協力する形でアフアの森に足を運んでいただき、活動をお伝えする機会も設けました。

##### 身体を使っての社会貢献 作業体験

ご支援をいただいている、インテージ株式会社及び株式会社ディー・エヌ・エーの社員の方々が、それぞれに森を訪れました。森林再生の現場を見ていただき、実際に作業を体験していただくことで、豊かな森の必要性を実感していただく場としました。

##### 財団スタッフと会員同士の交流の場に「会員の集い」

1月に東京都内で会員の集いを行ないました。財団の年間活動報告や調査報告の他に、英皇太子訪問やアフアンセンター建設及び約12haのトラスト等、明るい報告が中心となりました。

また、「平成20年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール」高校生の部“特選文部科学大臣賞”を受賞した、心の森参加者の磯貝憂貴くんをゲストに招き、作品展を行ないました。

##### 財団の活動を広めるためのブース出展

アースデイ東京、アースデイながの及びエコプロダクツ2008に、ブース出展を行ないました。ポスターやパネル展示、プロジェクターを用いて財団の概要をわかりやすく伝えるとともに、ストラップや書籍などのグッズ販売も行いました。

##### 財団の活動を広めるための講演活動

シンポジウムや講演会に職員が出向き、財団の活動を広める機会としました。

#### (ケ) その他の事業

##### アフアンセンター建設に向けて

2009年度着工に向け、設計を中心に行いました。



### C.W.ニコル プロデュース 『地球環境考える 英国の旅』

このツアーは、英国の森と河川の自然再生の現場を訪ね、注がれた思いや取り組みを肌で感じ、参加した方々が日々の自然環境への意識や活動につながることを目指した“旅”です。現場に携わった方からのお話をうかがうだけでなく、歴史や暮らしにも触れ、地元の小学生と共に植樹も行いました。6月10日～15日の4泊6日の日程で、

前半： ウェールズにてカーディフ市内と、姉妹森であるアフアン森林公園

後半： テムズ川の再生の現場とウィンザー

へ出かけ、参加者は32名、短くもとても充実したツアーとなりました。

(旅行企画・実施：ANAセールス プログラム監修：C.W.ニコル 協力：(財)C.W.ニコル・アフアンの森財団)

旅は「ウェールズの文化に触れる日」から始まりました。首都カーディフでは、“ブラック・ダイヤモンド”と言われた南ウェールズの良質な石炭で、巨万の富を得た貴族のお城「カーディフ城」と、石炭流通の最前線で多くの労働者がひしめき合っていた「カーディフ湾」を見て歩きました。

城主の別荘だった、森の中にある小さなお城も見学し、貴族の優雅な暮らしに驚いたあと、庶民の生活の様子を学べる「ウェールズ生活博物館」へ出かけました。以前の街並みがそのまま再現されていて、ニコルが子供のころに見ていた郵便局とそっくりな建物もありました。

この日の最後は、ウェールズの古い歴史に触れる時間でした。6～7世紀、英語が入ってくるずっと以前、その当時の様子を古典楽器に載せて語るものでした。歌うのが当たり前のウェールズの言葉と音感をじっくり味わう時間でした。



「石炭が儲かる」と先見の眼を持っていた貴族、その周りにいた労働者、決して裕福ではないものの自然環境と共にあった庶民の暮らしを体験し、日本ではピンとこない当たり前の格差社会を肌で感じました。そして、古くから伝わるウェールズの世界観にも触れる一日でした。

それぞれに感じる場所を持ちながら、アフアン森林公園へ出かけました。写真でしか見たことなかった“afanの谷”をバスから眺めながらビジターセンターへ。

ニコルから改めて姉妹森に至る経緯の話を聞き、その締結を記念して作られた“KANJI WOOD (カンジウッド)”を訪問しました。日本の樹も植えられている場所でしたが、英国の自然に触れる初めての機会なので、草花や樹に目が行きます。ブナの仲間が生垣に使われていたのは印象的でした。

## 巻末資料：地球環境を考える英国の旅



そして、植樹場所へ。「こりゃデカイ！」と思わず声を出してしまった特大サイズの軍手をはめ、比較的大きな苗木(15種 40本)を、現地スタッフにご協力頂いて、ツアー参加者の皆で植えました。ブナやシラカバ、ナナカマド、クルミ、などバラエティに富んでおり、アフアン森林公園でも針葉樹から広葉樹への転換を図る取り組みが始められているとのことでした。

日本のアフアンの森のスタッフだけでも一本植えさせていただきました。「そういえば植えた木どうなっているかなぁ」とウェールズの話になるたびに思い出します。



チーフレンジャーのワグスタッフさんの気さくさとエネルギーの高さにもそうでしたが、センタースタッフの皆さん、森林管理官の方々、ボランティアグループのウッドペッカーズの皆さんが、歓迎してくれて、国を超えて同じ志のある方との出会いに感動しました。

イングランドに戻り、今度は水回りの再生の現場を訪問しました。汚染がひどかったが、カワウソが生息できるまでに再生した「テムズ川」、水害対策のために造成した「ジュビリー川」、コンクリートでため池を、生き物が生息でき学べる場所へ改編した「ウェットランドセンター」を見て回りました。

それぞれの現場へ、英国環境庁自然保護マネージャーであって、財団の理事でもあるアリストアー・ドライバー氏が同行し、実情や工夫点など解説いただきました。特にテムズ川はボートで行き来しながら、川岸の様子や、水位を調節するための“Lock”(水位の高低差を調節して船を通す、船の前後を水門ではさむ施設)を通過し、水調節の工夫を見ることができました。



多くのNGOと協力した大規模な取組であること、野生動物の生息を取り戻すことで、その周辺地域に暮らすことがステータスとなっていることが、印象的でした。

英国の現場を実際に見て感じる事ができたことも有意義でしたが、事務局が姉妹森である「アフアン森林公園」へ出かけレンジャーと握手を交し、そして理事であるアリストアー・ドライバー氏とともに時間を過ごせたことは、これから英国との交流が深くなるきっかけとなったように感じました。



### チャールズ英皇太子および高円宮妃久子さまアフアの森ご来訪レポート

2008年10月30日、チャールズ英皇太子が高円宮妃久子さまと一緒に、アフアの森にご来訪になりました。12:50頃、お車で森の入り口に到着され、ニコル理事長がお出迎えをいたしました。

入り口すぐの炭焼き窯で松木常務理事より炭焼きについてご案内いたしました。その後、ホダ木のナメコやシイタケについてご説明を行いました。皇太子はシイタケを手にとり、香りをかいだりしておられました。



両殿下とも、自然環境には大変造詣が深く、特にチャールズ皇太子の公領農場、「ホーム・ファーム」は英国のオーガニックの流れをリードする存在であり、生き物本来のサイクルに寄り添った農法から作られた製品は、「ダッチー・オリジナル」のブランドで日本でも人気があります。また、その収益は慈善事業に還元されています。

ティビー裏では、地元の小学6年生の子供たちが、両殿下をお出迎えいたしました。お二方とも気さくに話しかけ、子供たちは大変緊張した様子でした。

用水路沿いの国有林の様子を見ながら進み、その後はツリークライミングの様子をご紹介させていただきました。

ツリークライミングジャパンのジョン・ギャスライトさんとその家族、地元のインストラクターと子供たちが登っているシーンをご覧いただきつつ、ニコル、ジョンさんとお話をされていました。

## 巻末資料：英皇太子ご来訪レポート

その後は、木漏れ日が注ぎ込む気持ちのよい場所をゆっくりと散策され、3人のお話もずいぶんとはずんでいるようでした。

池や水路では、ニコルが中心となって設立された東京環境工科専門学校の先生、学生の調査実習の様子もご覧いただきました。ヤゴなどの水生生物に興味深くご覧になり、学生にもお声を掛けてらっしゃいました。



サウンドシェルターでは紅茶をお飲みになり、ツキノワグマやフクロウの雛、アファンの四季の様子の写真をご紹介しながら、駐日英国大使も含めてご歓談され、森の時間を楽しんでおられました。

1時間半ほどの滞在はあっという間に過ぎ、アファンの森財団のスタッフや地元の方々へ笑顔で手を振っていただいた後、お車で次の訪問先である「黒姫和漢薬研究所」へと向かわれました。

今回の訪問はセキュリティ上の理由から、公表せずに進めてまいりました。多くの方々にご協力をいただき、この度このような名誉な日を迎えることが出来たものと考えております。

実際にご協力をいただいた皆様、直接ではなくともいろいろとご協力をしていただいた皆様、お気持ちを寄せていただいた皆様、そしてアファンの森を支えてくださっている会員の皆様へ、この場をお借りいたしまして改めて感謝申し上げます。

財団法人 C.W.ニコル・アファンの森財団

(撮影：南 健二) 写真の転用はご遠慮ください



## おわりに

---

下記の方々には、さまざまな形でご協力いただきました。（敬称略、五十音順）

石川啓吾  
遠藤祐二  
金子与止男  
川崎公夫  
堤勝彦  
三森典彰  
山田明義

財団のボランティアとしてご協力いただいた皆様  
日本アムウェイディストリビューターのボランティアとして御協力いただいた皆様  
リコーグループのボランティアとして御協力いただいた皆様  
のへら隊（グリーンセイバー有志）の皆様  
人と自然の研究所  
財団法人 リモート・センシング技術センター